―にいがた和牛をもっと増やそう！―

和牛繁殖雌牛増頭への取組事例

平成２９年８月

公益社団法人新潟県畜産協会

新潟県畜産振興協議会

和牛繁殖農家の廃業などにより子牛生産頭数が減少したことから、肥育素牛価格が異常に高騰し、繁殖和牛の増頭が全国的な課題となっています。

新潟県においても平成24年には1,202頭であった繁殖和牛（経産牛）頭数が、平成26年には1,070頭まで落ち込み、にいがた和牛の生産、出荷が危惧される状況に至りました。

そのような中、県内においては様々な支援対策を活用しながら和牛繁殖の規模を拡大する経営や新たに繁殖和牛の飼育を開始する経営が出てきました。

各々の特徴などを取りまとめましたので、和牛経営の規模拡大や新たに飼育を検討されている方の参考になれば幸いです。

目　次

☆新規　島の和牛振興へ　目指せ市場上場頭数400頭
佐渡市新穂潟上　佐渡農業協同組合　大型和牛繁殖支援施設…… 2
☆新規　島の振興を願い　退職後に和牛繁殖
佐渡市新穂船下　中川　邦昭 氏 …… 3
☆増頭　就農し規模拡大に取組む後継者
佐渡市戸地　野﨑　健司 氏 …… 4
☆増頭　親子で和牛繁殖を　後継者就農を機に規模拡大へ
佐渡市石田　渡部　晃 氏、あずさ 氏 …… 5
☆増頭　退職後に和牛増頭　楽しい牛飼いを目指す
佐渡市椿尾　岡崎　敦 氏 …… 6
☆新規　計画的な増頭で酪農経営から和牛繁殖経営へ
阿賀野市久保　佐藤　豊紀 氏 …… 7
☆新規　故郷で始める第二の人生　和牛繁殖へ参入
燕市源八新田　清水　誠一 氏 …… 8
☆新規　故郷に再び牛の姿を　独立を目指す若手牛飼い
上越市牧区　近藤　大貴 氏 …… 9

○繁殖雌牛の増頭に関する事業・資金紹介……10

新　規

島の和牛振興へ　目指せ市場上場頭数400頭

佐渡市新穂潟上　佐渡農業協同組合　大型和牛繁殖支援施設
キャトルブリーディングステーション（CBS）

ＣＢＳを立ち上げた理由

佐渡島内の繁殖雌牛飼養頭数が減少し、それに伴ってJA佐渡高千市場の上場頭数が減少したことから、島の和牛産業の維持・振興を図るために、ＣＢＳに着手

明るく広い繁殖牛舎内部

施設整備と繁殖雌牛の導入

・畜産クラスター事業を活用し、平成29年３月に繁殖牛舎１棟（収容可能頭数120頭）と隔離牛舎1棟（同30頭）を整備
・繁殖雌牛の導入には県及び市の補助事業を利用し、平成29年５月現在で30頭（育成牛を含む）を飼養

繁殖牛舎

隔離牛舎

経営・飼養管理の特徴

・ＪＡ佐渡が繁殖雌牛を飼養して子牛生産を行うほか、島内の繁殖農家から子牛や繁殖雌牛の預託受け入れを予定
・飼養面積を広く、天井を高くすることで、牛のストレスを軽減
・粗飼料の大部分を島内で委託生産することで、佐渡の農業振興に寄与

隔離牛舎の育成牛たち

今後の計画・目標

・畜産クラスター事業を活用して４haの敷地に全７棟の牛舎と堆肥舎等の施設を整備（平成30年３月竣工予定）し、繁殖雌牛250頭規模を目指す。
・高能力な繁殖雌牛の整備を図りながら、年間の市場上場頭数400頭（現在300頭）を目指す。

繁殖雌牛の増頭計画

調査時	H29 年	H30 年	H31 年
3 頭	95 頭	220 頭	250 頭

施設管理者から一言

佐渡の和牛振興と農家の期待に応えるため、必ず増やさなければならないという使命感を持って増頭に取り組みます。

管理者の方々

新　規

島の振興を願い　退職後に和牛繁殖

佐渡市新穂船下　中川　邦昭 氏（60 歳）

和牛繁殖を始めた理由

佐渡の地域活性化を図りたいとの思いから、畜産振興や和牛の増頭を応援するために自らが牛飼いを始めることを決意し、県職員を退職後に和牛繁殖経営に参入した。

牛舎の整備と繁殖雌牛の導入

・島内の和牛農家から空き牛舎を借用（収容可能頭数6頭）
・高千市場から牛を導入して平成29年４月から飼養を開始し、平成29年５月現在は５頭を飼養。今後、肉用牛経営安定対策補完事業を活用し増頭する予定

牛舎（右）とパドック

経営・飼養管理の特徴

・開業獣医師として診療業務等を行いながら、自らも和牛を飼養
・既存の牛舎にパドックを整備し、牛が自由に過ごせるストレスフリーな牛舎環境を心がける。
・島内の市営牧場を活用し、省力化を図る。
・粗飼料は河川敷や畦、休耕地等の野草の他、購入粗飼料も全量島内のものを使用、佐渡産と低コストを目指す。

今後の計画・目標

・平成29年度中には繁殖雌牛を10頭まで増やす。
・獣医師として、分娩間隔の改善等、個々の和牛繁殖経営の改善を図りながら、島内全体の繁殖成績を向上させ、高千市場への子牛上場頭数を増やす。
・多くの人に牛の魅力を感じられるような飼育を目指す。

広く明るい牛房

繁殖雌牛の増頭計画

調査時	H29 年
5 頭	10 頭

経営者から一言

60歳代の中堅世代でも、新しく気軽に牛飼いができることを実証したい。この取組をきっかけに、自分のような新規の牛飼い仲間を増やし、「和牛の島佐渡」を実現したいと思います。

中川さんと繁殖雌牛

増　頭

就農し規模拡大に取組む後継者

佐渡市戸地　野﨑　健司 氏（24 歳）

繁殖雌牛の増頭を始めた理由

学校を卒業後、島外で就職していたが、子供の頃から牛を飼っていた母親の手伝いをしていたことから、自分もやりたいと思ったことがきっかけで就農を決め、同時に規模拡大に乗り出した。

牛舎の整備と繁殖雌牛の導入

・牛舎は平成27年に新築（収容可能頭数10頭）
・繁殖雌牛は県外導入や自家保留で確保し、平成29年５月現在は５頭を飼養
・牛舎整備、牛の導入経費は自己資金と新規就農者のための補助事業を利用

新築した牛舎

牛舎内部

飼養管理の特徴

・採光のために屋根を工夫し、牛舎内を明るくすることで、個体の体調の変化や発情の兆候を見逃さないようにしている。
・清潔な牛舎環境を心がけ、牛のストレスを軽減
・人工授精はJAの畜産担当である父が実施
・自給粗飼料としてイタリアンライグラスとオーチャードグラスを43ａ、コーンを17ａ生産し、コスト低減を図る。

屋根の工夫により明るい牛舎に

今後の計画・目標

・繁殖雌牛10頭規模まで増頭したい。
・パドックや堆肥舎を整備し、飼養・作業環境を整えたい。

繁殖雌牛の増頭計画

調査時	H29 年	H30 年	H33 年
5 頭	6 頭	7 頭	10 頭

後継者から一言

佐渡に同年代の牛飼いが少ないので、少し寂しい。牛飼い仲間が増えるよう、牛の楽しさを伝えていきたいです。

健司さんとご両親

増　頭

親子で和牛繁殖を　後継者就農を機に規模拡大へ

佐渡市石田　渡部　　晃 氏（58 歳）・あずさ 氏（26 歳）

繁殖雌牛の増頭を始めた理由

平成29年11月に娘が後継者として就農する予定であり、せっかくなので良い牛をそろえたいとの思いから、飼養牛の更新を計画。また、以前から増頭を考えており、後継者が就農するこのタイミングで規模拡大を決めた。

牛舎内部

牛舎の整備と繁殖雌牛の導入

・牛舎は既存のものをそのまま利用（収容可能頭数25頭）
・増頭する繁殖雌牛は自家保留と市場導入により確保し、平成29年５月現在は９頭を飼養。他、肥育牛が１頭いる。
・繁殖雌牛の導入経費は自己資金でまかなう他、肉用牛経営安定対策補完事業を活用する予定

経営・飼養管理の特徴

牛舎外観

・自家保留した雌子牛はすべて高能力牛の産子でそろえ、牛群を整備。また、導入牛も高千市場から能力の高いものを選定して導入した。
・就農予定の後継者は、ＪＡの肉用牛センターに勤務しており、和牛飼養の技術と知識を習得中
・牧草を80ａ生産し、粗飼料自給率50％とすることで、コスト低減を図る。

今後の計画・目標

・適切な飼養管理により、分娩事故ゼロを目指したい。
・最終的には牛舎の収容可能頭数とほぼ同じ24頭を目標に、計画的に増頭したい。

自家保留と外部導入により牛群を整備

繁殖雌牛の増頭計画

調査時	H29 年	H30 年	H33 年
9 頭	14 頭	16 頭	20 頭

経営者から一言

幸いにして後継者ができたことにより、規模拡大することができました。これからも意欲的に増頭に取り組んでいきます。

あずささんとご両親

増　頭

退職後に和牛増頭　楽しい牛飼いを目指す

佐渡市椿尾　岡崎　　敦 氏（55 歳）

繁殖雌牛の増頭を始めた理由

もともと、ＪＡに勤務しながら5頭規模の繁殖雌牛を飼養していたが、後継牛が生まれて牛舎が手狭になったため、平成29年２月の退職を機にハウス牛舎を新築し、規模拡大を図った。

のびのび育つ子牛たち

施設の整備と繁殖雌牛の導入

・平成29年にハウス牛舎を新築し、20頭収容できるよう整備。また、堆肥舎を新設した。
・繁殖雌牛は自家保留と市場導入により増頭し、平成29年５月現在で15頭を飼養
・牛舎等施設整備、繁殖雌牛の導入経費は県と市の補助事業を活用して確保した。また、今後は肉用牛経営安定対策補完事業を活用する予定

新築したハウス牛舎

牛舎内部

経営・飼養管理の特徴

・連動スタンチョンを設置し、個体管理を容易にしている。
・コスト削減と十分な飼養スペースの確保のため、島内の市営放牧場を利用している。
・直腸検査を自ら行い、卵巣の状態を確認することで、牛の栄養状態を把握し、適期授精に努めている。

スタンチョンによる管理

今後の計画・目標

・繁殖雌牛を目標の20頭まで早期に増頭したい。
・飼養管理を徹底して子牛生産率を90％以上にしたい。

繁殖雌牛の増頭計画

調査時	H29 年
15 頭	20 頭

経営者から一言

のんびりと楽しみながら、繁殖経営を長く続けていきたいと思っています。

岡崎さんと繁殖雌牛

新　規

計画的な増頭で酪農経営から和牛繁殖経営へ

阿賀野市久保　佐藤　豊紀 氏（64 歳）

繁殖雌牛の飼養を始めた理由

30頭規模の酪農経営を続けてきたが、平成２年に受精卵移植により和牛子牛を生産したことがきっかけとなり、平成４年から繁殖雌牛の飼養を開始。その後、労力面での負担軽減のため、和牛繁殖経営への転換を目指し、平成28年３月に酪農経営を中止して和牛繁殖経営に完全移行した。

牛舎の調達と繁殖雌牛の導入

・牛舎は昭和47年に建設した酪農牛舎を平成17年に増改築して利用（繁殖雌牛収容可能頭数40頭）
・繁殖雌牛は受精卵移植（ET）により毎年３～４頭、計画的に保留したほか、県内産ET子牛や鹿児島県から育成牛５頭の導入（平成19年）、肉用牛経営安定対策補完事業の活用により、29頭に増頭

手作りの木枠により酪農牛舎を改造

自家牧草のロールベール

パイプによりもみ殻を自動補充

飼養管理の特徴

・牛舎は採光、通風を良くし、明るく働きやすい環境で牛の観察を強化
・繁殖雌牛は分娩監視カメラを設置して事故を防止
・子牛は下痢予防に重点をおいて牛床の乾燥等衛生対策を強化
・飼料は12haの牧草地を活用して粗飼料はほぼ100％自給

受胎牛は広い牛房でのびのびと飼養

今後の計画・目標

・育種価の低い繁殖雌牛の更新により高能力牛をそろえる。
・子牛出荷頭数は繁殖雌牛頭数の８割を目標（月２頭）

繁殖雌牛の増頭計画

調査時	H29 年
29 頭	30 頭

佐藤さんと繁殖雌牛

経営者から一言

酪農経営で繁殖牛を飼養する場合、将来的な経営形態等の方向性を定めて、資金繰りを考えて計画的に増頭することが大切と思います。

新　規

故郷で始める第二の人生　和牛繁殖へ参入

燕市源八新田　清水　誠一 氏（65 歳）

繁殖雌牛の飼養を始めた理由

3 年前に東京都内の会社（製造業）経営から退き、故郷の燕市に戻り、平成 27 年に知り合いの酪農家から交雑種子牛を購入したことがきっかけとなり、新たに和牛繁殖経営を開始することを決意し、平成 27 年に家畜市場から導入した雌子牛 2 頭の飼養を開始した。

牛舎の調達と繁殖雌牛の導入

・牛舎は 10 年前から倉庫として利用されていたハウスを改造したほか、平成 28 年にハウス牛舎を増築した（合計で繁殖雌牛収容可能頭数 20 頭）。
・繁殖雌牛は県内家畜市場から経産牛 1 頭のほか、肉用牛経営安定対策補完事業を活用して雌子牛を導入し、11 頭に増頭

増築したハウス牛舎

牛舎内部

飼養管理の特徴

・繁殖雌牛、子牛の体にふんを付けないことに気を配り清潔に管理
・子牛は下痢予防に重点をおいて牛床の乾燥等衛生対策を強化
・粗飼料は全量自給がポリシー、5ha の牧草地での乾草生産、飼料用稲 WCS 等で達成
・自給飼料栽培用の一連の作業機は中古を安価で調達

通路、牛房とも清潔に管理

今後の計画・目標

・水道施設の設置、敷料倉庫、パドックの建設等施設を整備
・購入した和牛受精卵を利用し、酪農家との移植契約により、繁殖雌牛を 20 頭に増頭
・会社経営に携わった経験をもとに低コストでの経営を確立

清水さんと繁殖雌牛

繁殖雌牛の増頭計画

調査時	H29 年	H30 年
11 頭	15 頭	20 頭

飼養者から一言

新規に繁殖経営を開始するには、子牛出荷までの一定期間は収入がないことに加え、農業委員会等関係機関、団体への手続きが大変であることを見据えて計画的に取り組むことが必要と思います。

新　規

故郷に再び牛の姿を　独立を目指す若手牛飼い

上越市牧区　近藤　大貴 氏（22 歳）

繁殖雌牛の飼養を始めた理由

３年前に肉牛の飼養者がいなくなった故郷の牧区(旧牧村)に牛の姿を戻したいとの思いから、就農を決意。法人経営の畜産農場に勤務しながら、将来的に独立するため、同区の空き牛舎で平成29年４月に繁殖雌牛の飼養を開始した。

牛舎の調達と繁殖雌牛の導入

・牛や牛舎（収容可能頭数60頭）は、勤務先（上越市頸城区）から提供を受け、飼養を開始
・最初は繁殖雌牛4頭、平成29年６月現在は７頭に増頭

牛舎外観

牛舎内部

飼養管理の特徴

・家畜人工授精師免許、削蹄師資格を所有
・牛を360度全方向から観察し、健康状態と発情兆候に気を配っている。
・毎日牛に触れて愛情いっぱいに育てているため、人慣れしており扱いやすい。

人慣れしており落ち着いている繁殖雌牛

今後の計画・目標

・旧牧村で行われていた「牛の丸焼きまつり」を復活させ、地域の活性化に貢献したい。
・最短で５年後に繁殖雌牛40頭規模を目指す。また、雌肥育にも取り組みたい。

繁殖雌牛の増頭計画

調査時	H29 年	H30 年	H33 年
7 頭	9 頭	17 頭	40 頭

飼養者から一言

新しく牛飼いを始めるのは大変ですが、自分は縁やつながりに恵まれて実現できました。これから新しいことを始めたい方は、色々な人と関わるために積極的に動くのが良いと思います。

近藤さんと繁殖雌牛

和牛繁殖雌牛の増頭に関する県の支援について
～　事業及び資金の紹介　～

注目

項　目	事業名	事業主体	事業の概要
●繁殖雌牛を導入したい	にいがた和牛肥育素牛生産拡大事業	・全農にいがた ・新潟県家畜商協同組合	和牛繁殖雌牛の増頭に対して、導入や自家育成に要する経費の一部を補助 （上限700千円/頭（税込）、補助率１/3以内）
●簡易牛舎等を整備したい	新潟県農林水産業総合振興事業（畜産振興促進）	・農業協同組合 ・民間リース会社等	認定農業者等がパイプハウス等畜舎やパイプハウス等自給飼料保管施設をリース導入する場合に補助 （補助率：一般地域4.5/10以内、中山間地域５/10以内）
●飼料作物や稲わら等自給飼料を生産して利用したい	新潟県農林水産業総合振興事業（畜産振興促進）	・農業協同組合 ・民間リース会社等	認定農業者等が自給飼料生産機械をリース導入する場合に補助 （補助率：一般地域３/10以内、中山間地域１/3以内）
●規模拡大や品質向上に必要な家畜管理機械を導入したい	新潟県農林水産業総合振興事業（畜産振興促進）	・農業協同組合 ・民間リース会社等	認定農業者等が家畜管理機械をリース導入する場合に補助 （補助率：一般地域3/10以内、中山間地域1/3以内）
●稲ＷＣＳを生産して利用したい	新潟県農林水産業総合振興事業（稲WCS生産・跡作園芸拡大支援）	・農業協同組合 ・民間リース会社	認定農業者等が稲ＷＣＳ収穫・調整機械や、資源循環に必要な機械をリース導入する場合に補助 （補助率：5/10以内）

●繁殖雌牛の購入や育成に必要な資金を借りたい	農業経営基盤強化資金（スーパーＬ資金）【日本政策金融公庫資金】 認定農業者向けの長期かつ低利な資金、規模拡大に必要な資金に対応 ・貸付使途　繁殖雌牛の導入、飼料費など導入牛の育成費用 ・貸付限度額　個人３億円、法人10億円 ・貸付期間　償還期間25年（うち据置10年） ・貸付利率　0.16～1.30％（H29.7.20 時点） ※「人・農地プラン」の担い手である場合は貸付当初５年間無利子

◆ 補助事業や経営・資金に関するご相談は…
県地域振興局（農業普及指導センター）まで

◆ 飼養管理技術に関するご相談は…
県家畜保健衛生所・県地域振興局（農業普及指導センター）まで

◆ その他、繁殖雌牛の増頭に関するご相談は…
県農林水産部畜産課生産振興係電話 025-280-5309 まで

和牛繁殖雌牛の増頭を応援します!!

問い合わせ窓口　　公益社団法人新潟県畜産協会　業務課　TEL：025-234-6782

次年度以降

繁殖雌牛の増頭に取り組む方へ

肉用牛経営安定対策補完事業（平成29年度の参加受付は終了）

【中核的担い手育成増頭推進】
優良な繁殖雌牛を増頭した場合、
増頭１頭当たり　８万円　もしくは　10万円　の奨励金を交付します。

【優良繁殖雌牛導入支援】
地域の改良に必要な優良繁殖雌牛を導入した場合、
導入１頭あたり　４万円　もしくは　５万円　の奨励金を交付します。

次年度以降

繁殖牛舎の整備・改造に取組む方へ

肉用牛経営安定対策補完事業（平成29年度の参加受付は終了）

【繁殖雌牛の増頭に資する簡易牛舎等の整備】
繁殖雌牛の増頭等に資する簡易牛舎の整備、施設の改造等を行う場合、経費の　１/２　を補助します。

※各事業の参加には要件があります。詳細は上記問い合わせ窓口までご連絡ください。

本誌に関する問い合わせ

公益社団法人新潟県畜産協会
TEL：025-234-6782　FAX：025-234-7045　E-mail：chikusan@bg.wakwak.com